

## 2013年度事業報告(案)

### 1. 事業報告全般

会員が所属する機関において組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり、協会を取り巻く状況も厳しさが増している。このような状況下で、魅力のある協会とすることを検討課題として、年間の諸事業を推進しているところである。

・新たな研究会として、企業体の経営、意思決定に資する情報の調査・分析に関する3i研究会を発足させた。本研究会は科学技術振興機構（JST）および（株）ジー・サーチなど各機関の協力のもと、35名の参加者を得て8月にスタートし2014年5月まで研究活動を行い、その成果を情報プロフェッショナルシンポジウムなどで発表する予定である。また、本年度3月には中間報告会を開催した。

・協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業（講習会、シンポジウム、情報検索能力試験を含む）をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。  
主な実績は次の通りである。

・会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。また、委員会レポートや情報検索能力試験実施など、協会活動の紹介を行った。一般刊行事業では、「ビブリオバトル入門」および「MeSH入門」の2つの図書を刊行した。

・研修事業については、研修委員会を中心に、西日本委員会およびパテントドキュメンテーション委員会との連携により企画・推進を行い、会員の注目するセミナー、見学会を16回開催した。

・情報検索能力試験については、全国8ヶ所の公開試験会場と6ヶ所の個別試験会場で実施した。また、新試験「検索技術者検定」を来年度から実施するための準備活動を行った。

・第10回情報プロフェッショナルシンポジウム2013は、多くの参加者を得ることができた。

・研究会としてのOUG（4分科会）、SIG（5部会）については、それぞれの分科会、部会において活発な活動が行われた。

・本年度から、国際標準化機構（ISO）のTC37（専門用語、言語、内容の情報資源）及びTC46（情報とドキュメンテーション）の国内審議団体としての業務を開始した。

・受託事業として、日本図書館情報学会の「2013年度図書館情報学検定試験」の運営に係る業務等を実施した。

2. 2013年度役員および担当（○は2013年度選出）

理事（東日本地区）

- 岩澤一男 出版委員会（副）  
 白井裕一 パテントドキュメンテーション委員会（正）、事業推進部会委員  
 長田孝治 標準化委員会、事業推進部会委員  
 小田島互 3i研究会（正）、事業推進部会委員  
 ○小野寺夏生 会長、運営部会長、事業推進部会委員  
 川村 剛 副会長（兼専務理事）、運営部会委員、事業推進部会長  
 真銅解子 副会長、運営部会委員、事業推進部会委員、表彰者選考委員会委員長、  
 3i研究会（副）  
 ○鈴木博道 SIG、OUG、運営部会委員  
 ○須藤健次郎 パテントドキュメンテーション委員会（副）  
 ○津山重雄 運営部会委員  
 ○時実象一 試験実施委員会（正）  
 ○林 和弘 運営部会委員、研修委員会  
 三沢一成 出版委員会（正）  
 ○望月聖子 試験実施委員会（副）  
 柳 一美 会誌編集委員会  
 ○吉野敬子 運営部会委員、著作権委員会

理事（西日本地区）

- 岡 紀子 西日本委員会  
 ○河塚 幸子 西日本委員会  
 中江貴彦 西日本委員会  
 山田瑞穂 西日本委員会

監事

- 廣谷映子 増田 豊

諮問委員（東日本地区）

- 青柳英治 阿部信一 稲田聡子 今富良子 内田哲彦 江草由佳  
 小山内正明 小林哲雄 澤田大祐 清水美都子 豊田恭子 西内 史  
 松谷貴己 渡邊正彦

諮問委員（西日本地区）

- 稲葉洋子 田中邦英 永石弓子 松戸宏予

3. 会員異動

種別	2012年度末	入会	退会	増減	2013年度末
維持会員	57	3	3	0	57
特別会員	100	0	15	-15	85
正会員	1,106	61	110	-49	1,057
準会員	17	2	8	-6	11
合計	1,280	66	136	-70	1,210

#### 4. 会議開催状況

(1) 定時社員総会 …………… 1回

第56回定時社員総会および協会賞表彰式 : 2013年5月24日(金)

議題:

① 2012年度事業報告(案)および決算報告(案)(審議)

② 2013年度事業計画および予算(報告)

③ 2013年度～2014年度役員選挙

④ 第38回情報科学技術協会賞表彰

・情報業務功労賞 稲葉洋子殿 藤村和男殿

・教育・訓練功労賞 三輪眞木子殿、

・優秀機関賞 独立行政法人科学技術振興機構 情報事業グループ

⑤ 永年会員推挙

(2) 理事会 …………… 4回(5月14日、6月18日、11月1日、3月28日)

(3) 諮問委員会…………… 1回(2月14日)

(諮問事項:協会の活動において今後重点を置く方向性について)

(4) 部会・委員会

運営部会 …………… 2回 事業推進部会 …… 4回

会誌編集委員会 …… 12回 シンポジウム実行委員会 …… 4回

表彰者選考委員会 …… 1回 試験実施委員会 …………… 13回

著作権委員会 …………… 0回 研修委員会 …………… 4回

西日本委員会 …… 6回 パテントドキュメンテーション委員会 …… 6回

出版委員会 …………… 2回 標準化委員会 …………… 1回

#### 5. 刊行事業

##### 5.1 会誌刊行事業(会誌編集委員会)

2013年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度も情報担当者の世界で話題になっているトピックを幅広く取り上げることができた。特集内容は若干図書館分野に偏りがちな傾向はあるが、編集委員会内でもこの点には留意し、他誌では扱い難いトピックを取り上げるなど工夫を凝らしている。例えば2013年8月号の特集「当世“書店”気質」では、担当主査が一日書店員を実際に体験し、その内容を記事として掲載した。

前年度に引き続き、協会の他の委員会と連携した特集も刊行した。2013年5月号の特集「医学系データベース」では、企画の一環で、研修委員会の協力のもと医学中央雑誌刊行会への見学会を実施し、見学会に関する記事を掲載した。会誌の企画検討の中で見学会実施の発案があり、それを基に研修委員会で見学会を企画するという、これまでにはあまり無かった連携による試みであった。また、研修委員会からは、入門者向けの特集である2013年4月号「インフォプロの自己研鑽」の企画においても協力をいただいております、今後も協力関係を継続していきたい。

パテントドキュメンテーション委員会からは、2013年7月号の特集「特許分類を考える」において多大な協力をいただき、コラボレーション企画として特集を組んだ。今後も同委員会からの協力をいただきながら、年に少なくとも1回は知財、特許分野の特集を組んで行きたいと考えている。

このような協会の各事業委員会などとの連携による企画は、従来から定期的に掲載している情報

検索能力試験報告、協会関連の研究会やセミナーの報告などとともに、協会活動の周知を図る上で有効に機能したものと考えている。

投稿記事は2013年4月から2014年3月の間に1本掲載した。投稿記事は、特集では実現し得ないトピックの紹介や会員間の情報共有の場として重要だが、前年度よりさらに減少し、1本にとどまったことは残念である。

会誌編集委員会では、西日本委員会の協力のもと「西日本協力員」という制度を設け、2名を協力員に任命している。協力員は電子メールベースで委員会に参加するとともに、年2回の企画会議に出席している。また企画会議には、研修委員会、パテントドキュメンテーション委員会からのご出席もある。各事業委員会との情報共有・意見交換を進めることで、より多角的な視点による特集が実現できるものと考えている。

### 【特集】

2013年

4月号 インフォプロの自己研鑽

5月号 医学系データベース

6月号 デジタル時代の図書館建築とその施設・設備

7月号 特許分類を考える

8月号 当世“書店”気質

9月号 e-Science とその周辺 ～現状とこれから～

10月号 フリーペーパー

11月号 今後の学術情報流通

12月号 情報の収集と発信

2014年

1月号 情報リテラシー

2月号 オープンソースソフトウェア：OSS

3月号 第10回情報プロフェッショナルシンポジウム

### 【連載】

INFOSTAの活動紹介（2014年2月号より連載中）

### 【コラム】

INFOSTA Forum（継続連載中）

#### 5.2 一般刊行事業（出版委員会）

2013年度は、以下の2種を刊行した。

- ①「ビブリオバトル入門 ～本を通して人を知る・人を通して本を知る～」2013年6月刊行。  
また、発行後は積極的な販促活動及び各書店等からの問合せに対処し、第2刷に結びつけた。
- ②「MeSH入門」2013年12月発行。

なお、当初予定していた「COUNTER」（仮称）の発行については、予定していた執筆者の都合がつかず、様子見とした。

上記2種の発行後は、新試験対応出版物との状況をみながら、次企画の検討を行った。

## 6. 普及研修事業

### 6. 1 研修会・セミナー（研修委員会）

2013年度に行ったセミナーおよび見学会は下表の通り。

（研修事業全体把握のため、研修委員会企画分、西日本委員会企画分、パテントドキュメンテーション委員会企画分をまとめて一覧した）

No.	名称	期日	企画	会場	参加者数
1	プロが語る特許調査の極意（全2回）	5月、7月	パテント	東京	延べ47
2	ビブリオバトル入門	6月30日	千代田図書館と共催	東京	77
3	情報検索基礎能力試験対策 セミナー 大阪	8月24日	西日本、研修	大阪	10
4	情報検索基礎能力試験対策 セミナー 東京	9月14日	西日本、研修	東京	26
5	基本から学び直すインターネット情報 資源と情報検索	9月6日	西日本	福岡	29
6	見学会 会員制ライブラリー 「BIZCOLI」	9月7日	西日本	福岡	12
7	サーチャージャー講座21 大阪	9月14-15日	西日本、研修	大阪	15
8	サーチャージャー講座21 東京	9月21-22日	西日本、研修	東京	40
9	東アジアの特許調査と必要な知識	10月24日	パテント	東京	17
10	CPCをはじめとするEPOの 特許情報普及活動	11月11日	パテント	東京	15
11	無料Webを利用したネット ワーキングのコツ	12月2日	研修	東京	19
12	見学会 医学中央雑誌刊行会	12月6日	研修、会誌	東京	19
13	見学会 うらわ美術館	12月14日	研修	東京	8
14	新春セミナー『魅せる』チラシの 作り方	1月17日	研修	東京	63
15	プロが語る特許調査の極意 第3弾	2月13日	パテント	東京	12
16	見学会 一橋大学社会科学古典 資料センター	3月3日	研修	東京	13

情報検索能力試験対策セミナーは、東京、大阪の2地区で情報検索応用能力試験2級および情報検索基礎能力試験の受験対策セミナーを実施した。

一般セミナーは、「ビブリオバトル入門」および「無料Webを利用したネットワーキングのコツ」を開催した。このうち「ビブリオバトル入門」は、同名の書籍の刊行（出版委員会）に合わせて行ったものである。

見学会については、うらわ美術館及び一橋大学社会科学古典資料センターを取り上げ、好評を得た。

また、恒例となっている新年会とのセット企画では、『魅せる』チラシの作り方』と題するセミナーを行い、多くの参加を得た。

#### 6. 2 シンポジウム (シンポジウム実行委員会)

INFOPRO2013は、(独) 科学技術振興機構との共催により、2013年10月10日～11日の2日間、日本科学未来館で開催した。特別講演、トーク&トークおよび一般発表など、充実した内容となった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、展示コーナーでの商品展示とプロダクト・レビューを開催した。

#### 6. 3 情報検索能力試験 (試験実施委員会)

2013年11月24日(日)に、昨年から新設された京都会場を含む8箇所の公開試験会場と6箇所の個別試験会場で試験を実施し、1級の二次試験は、2014年2月16日(日)に実施した。

個別実施会場は、6箇所で公開試験会場へ出かけることなく、地域の大学などで開催できることなど好評である。

受験者への対応として、テキストに基づく講習会を研修員会、西日本委員会の企画で東京地区および大阪地区で開催し、当委員会はそれに協力した。また、試験実施の広報として、司書課程、情報課程の大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館への試験案内の送付等の活動を行った。さらに、ポスター、パンフレットの配布なども実施した。以上の結果、受験者数は、638名(前年846名)であった。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区(3月8日)と大阪地区(3月9日)で開催した。「合格を祝う会」では、1級合格者の講演と新しい企画として1級試験のポイントについての説明を行い好評であった。

#### (1) 2013年度「情報検索能力試験」実施結果 (カッコ内は2012年度実績)

試験種別	受験者数	合格者数	合格率
基礎	481名(644名)	395名(534名)	82%(83%)
2級	144名(183名)	66名(85名)	46%(46%)
1級	13名(19名)	7名(3名)	54%(16%)
合計	638名(846名)	468名(622名)	

#### 試験地:

- ・ 1級一次・2級: 東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 1級二次: 東京
- ・ 基礎(公開会場): 東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 基礎(個別会場): 九州女子大、別府大、藤女子大、東札幌図書館、鳥取短期大学、  
宮城学院女子大学

#### (2) 新試験制度の準備

2003年度に改定された現試験制度の見直し作業の結果を基に、2013年度は新試験の制度や試験範囲の内容について検討してまとめ、5月の社員総会で概要について報告を行い、会員の質問、意見を得て、試験内容検討の参考にした。また、作成された試験範囲に基づいた新しいテキスト

トの作成を検討したが、完全に新しいテキストを作成するには時間的に間に合わないことが予想された。新試験の実施を1年延ばして2015年からとする案も検討したが、総合的な判断から新試験の実施を優先することとした。そのため、2014年の新試験である「検索技術者検定」2級、3級については、現行の基礎、2級用のテキストを使用して、不足する分の資料をINFOSTAのホームページで公開するための資料の作成を行った。

## 7. 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。特に2013年度は関西を中心とした開催にとどまらず、出前講習会及び見学会を九州で実施した。

### (1) 委員会の開催（年6回）

普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、及びアンケート集計を含む実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。

### (2) 普及研修事業

#### ①講習会 3件

##### (a) 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー（1日コース）

- ・開催日、場所：2013年8月24日（土）、大阪産業創造館
- ・講師：河塚幸子氏（近畿大学非常勤講師、西日本委員会委員）

##### (b) サーチャー講座21：情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー（2日間コース）

- ・開催日、場所：  
大阪会場：2013年9月14日（土）、15日（日）、大阪産業創造館  
東京会場：2013年9月21日（土）、22日（日）、機械振興会館
- ・講師：岡紀子氏（佛教大学非常勤講師、西日本委員会委員）、池田剛透氏（多摩大学）  
田中邦英氏（近畿大学非常勤講師、西日本委員会委員）、  
三村智子氏（DIC株式会社）

##### (c) INFOSTA出前講習会「基本から学び直すインターネット情報資源と情報検索」

- ・開催日、場所：2013年9月6日（金）、キャナルシティ博多（福岡市）
- ・講師：原田智子氏（鶴見大学文学部教授）

#### ②見学会 1件

- ・場所：会員制ライブラリーBIZCOLI(Biz Communication Library) 福岡市中央区
- ・開催日：2013年9月7日（土）

#### ③会員交流活動

##### じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会（IS-Forum）」との共催で、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人達の交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2013年11月29日（金）、大阪市中央公会堂
- ・話題提供者：松下光範氏（関西大学総合情報学部教授）
- ・テーマ：「人はいかに情報を探索するか～使いやすいシステムを考える」

#### ④2013年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2014年3月8日（土）、大阪科学技術センタービル

#### ⑤「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。

## 8. 調査研究事業

### 8. 1 受託調査事業

学術情報XML推進協議会からホームページ運用に関する業務、日本図書館情報学会から図書館情報学検定試験に関する業務を受託した。

### 8. 2 標準化活動（標準化委員会）

(1) ISO/TC46国内委員会へ委員を派遣した。

(2) 日本規格協会からJIS X 0307:1989 (UDC) の定期見直し依頼を受けて、企業図書館等の聞き取り調査を実施し、継続すべきとの回答を送付した。

(3) 2014年度以降の委員会活動について、委員会に新メンバーを増員し意見交換を行った。

### 8. 3 著作権活動（著作権委員会）

他機関との連携、パブリック・コメントなどへの対応を可能とする体制づくりを準備し、試行と模索を心がけ、委員会を1回開催した。

体制づくりの途上にあり、TPP交渉や電子出版権に対する対応は、やむを得ず見送った。

### 8. 4 ISO/TC37及びISO/TC46国内委員会業務

国際標準化機構（ISO）の「情報とドキュメンテーション」（TC46）及び「専門用語、言語、内容の情報資源」（TC37）に関する国内委員会業務を、本年度より担当した。TC37は（一財）日本規格協会からの業務請負、TC46は（株）三菱総合研究所からの委託により実施した。

#### (1) ISO/TC37国内委員会

本委員会（石崎俊委員長）の下に、SC1（専門用語作成の原則と手法）、SC2（用語辞書編纂方法）、SC3（用語、情報、内容の管理システム）、SC4（言語資源マネジメント）、SC5（翻訳、通訳及び関連技術）の5つのSC国内委員会を置き、総会（2013年6月、プレトリア）への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票（24件）等を実施した。また、2件のISO原案について日本がプロジェクトリーダーを務め、原案作成に協力している。

#### (2) ISO/TC46国内委員会

本委員会（菅野育子委員長）の下に、SC4（技術的相互運用性）、SC8（品質—統計及び性能評価）、SC9（識別と記述）、SC11（アーカイブズ/記録管理）の4つのSC国内委員会を置き、総会（2013年6月、パリ）への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票（30件）等を実施した。SC9では、日本から国際規格提案を予定する国際図書館資料識別子（仮称）の準備作業のため国内WGを立ち上げて検討した（次年度ISO/TC46総会にて発表予定）。

## 9. その他の委員会、事業活動

### 9. 1 広報活動（広報委員会）

協会の諸活動の広報媒体として会誌を活用したほか、メールマガジンの定期的な発信を継続した。また、ホームページから入会申請、会誌・書籍購入の申し込みができるなどしている。一方で、現在のホームページの在り方（見栄えや使い勝手など）を見直すべきとの意見も多く、ワーキンググループを立ち上げて検討した。

## 9. 2 パテントドキュメンテーション活動 (PD委員会)

下記の事項について実施及び企画、検討を行った。

### (1) 特許調査に関する人材育成・研修

- ・「東南アジアの特許調査と必要な知識」のセミナー実施。
- ・「CPCをはじめとするEPOの特許情報普及活動」としてEPOによるセミナー実施。
- ・「プロが語る特許調査の極意」のシリーズセミナーとして「検索式作成について」、「特許マップについて」、「特許情報教育について」をテーマに3回実施。

### (2) 特許調査に関する刊行物

- ・会誌7月号特集「特許分類を考える」について、会誌編集委員会と共同で企画し刊行した。

### (3) その他

研修委員会と連携し、特許関連セミナーの企画を行った。

## 9. 3 表彰者選考委員会

第38回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次の通り推薦した。

- ・情報業務功労賞 稲葉洋子氏 藤村和男氏
- ・教育・訓練功労賞 三輪眞木子氏
- ・優秀機関賞 独立行政法人科学技術振興機構 情報事業グループ

## 10. 部会・研究会活動

### 10. 1 日本オンライン情報検索ユーザ会 (OUG)

各分科会とも年間を通して主査を中心とする活動を行った。各分科会の活動は、以下の通り。

#### (1) 化学分科会 (主査：鈴木理加氏 6回開催)

##### ①例会開催報告

- ・4月：勉強会 著作権に関する勉強会
- ・7月：DB説明会 ScopusとQuosa (エルゼビア・ジャパン)
- ・9月：DB説明会 ProQuest Dialog (ジー・サーチ)
- ・2014年1月：ベンダー訪問 (一社) 化学情報協会
- ・2月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く
- ・3月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く

##### ②情報検索応用能力試験 試験問題2級の解答例をホームページより公開。

#### (2) ライフサイエンス分科会 (主査：西内 史氏 11回開催)

##### ①講演会 (9回)

- ・5月 新JDreamⅢ関連の話題
- ・6月 SciFinder (Web版) 最近の強化について
- ・7月 バイオサイエンスデータベースセンター最近1年間の変更
- ・9月 専門図書館における著作権とは
- ・10月 SLA2013 Annual Conference & INFO-EXPO のトピックス
- ・11月 剽窃 (盗用) の現状と問題解決 Crossref で採用された Crosscheck を中心とした iThenticate の紹介

- ・ 2014年1月  
医薬品と対応病名検索システム及び医薬品と対応病名データベース/WebAPI について
- ・ 2月 Wikipedia
- ・ 3月 ProQuest Dialog

②検索演題

- ・ 12月 情報検索能力試験 2013年1級の問題を解いた。

③見学会

- ・ 4月 印刷博物館

④その他

- ・ リンク集の見直し
- ・ 話題提供
- ・ アンケート実施：OUGの今後の運用について

(3) インターネット/ビジネス分科会 (主査：渡邊 晃氏 8回開催)

①インターネット情報検索関係：

- ・ 9月 情報システム(4種以上)から得る情報の新しさ  
(情報収集の効率化の一環として)
- ・ 11月 新用途の発想に関する情報量の比較(4システム)
- ・ 12月 目的情報を多く抽出する方法の検討
- ・ 2月 検索結果中のノイズを少なくできる検索方法

②調査に役立つ無料のウェブ提供サービス関係：

- ・ 5月 新規用途の発想に役立つ資料収集法
- ・ 11月 Google Scholar、IPDL、J-GLOBAL、ほか

③ビジネス関連の事例研究：

- ・ 4月 アイデア発想法に関する解説・手順サイト、関連図書
- ・ 6月 水素化社会における水素の新規用途の事例
- ・ 10月 マイクロ燃料電池の用途に関する事例

(4) 特許分科会 (主査：関口靖子氏 11回開催)

4月	全体討論	特許調査を考える
5月	説明会	THE 調査クラウド
6月	講演	特許調査におけるテキストエディタと正規表現の活用方法
7月	ベンダー訪問	化学情報協会
9月	情報交換	調査に関するQ&A
10月	検索演習	特許第4418574号
11月	情報交換	無料特許データベースに関する意見交換
12月	講演	検索競技大会優勝者・準優勝者の調査手法のご紹介
1月	講演	特許検索マトリックスを利用した検索式作成
2月	パネリストの発表+全体討論	特許調査スキルの向上について考える
3月	検索演習	言葉を用いた検索式の作り方

## 10.2 専門部会 (SIG)

特定分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の5つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。

### (1) 技術ジャーナル部会(会員企業：12社。コアパーソン：持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

- ・第1回(5月31日) 議題1 技報の改革  
議題2 特集と掲載原稿の決定
- ・第2回(7月26日) 議題1 講演「NDLのオンライン資料収集制度」  
議題2 討議「eデポ開始の技報編集業務への影響」
- ・第3回(10月18日) 著作権に関する講演会
- ・第4回(12月6日) 「和文英訳」および「英文のNative Check」の進め方
- ・第5回(1月31日) 冊子・誌面デザイン
- ・第6回(3月28日) 記事などの論文以外の企画・編集について

### (2) パテントドクメンテーション部会(会員：8名 コアパーソン：桐山 勉氏 毎月開催)

① INFOPRO2013において、今年も1件の発表を行った。

- ・【A21】中国特許調査の課題に関する研究-II

(今まで11年間連続して部会活動の成果を報告、発表継続期間の記録更新中)

②協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して)継続公開した。

③大阪工業大学のSNSにパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。

④外国専門誌による勉強：

- ・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。  
輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。

⑤特別研修会を2013年9月28日～29日(泊2日)に甲府で開催した。その際に、INFOPRO2013の発表の進め方について自由討議した。

⑥外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD委員会に実行委員会1名参加

⑦メンバー間のトピックス情報交換

米国PIUG2013、EMW2013、EPOPIC2013、PIAC2013 in China、IPI-ConfEX2014などの関連詳細情報をメンバー間で交換。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑧プロバイダーデモ勉強会の実施

- ・東芝のEi Plaza/DAのトライアルにより中国特許・実案の切り出しを研究し、INFOPRO2013にてその結果を発表した。

### (3) 分類/シソーラス/Indexing部会(コアパーソン：山崎久道氏 11回開催)

①「知の断片化」に関する研究について、これまで作業の中間まとめを行った。

②「インターネットが壊したところと言葉」など数点について、ブックレビューの形で担当者が発表し、最近の情報環境を踏まえて全員で討論した。

③来年度に通算300回開催を迎えるに当たり、これまでの各回の内容にUDCの番号を付与する

試みの企画を立てた。

④UDC日本語要約版作成に関する作業に協力した。

(4) Webサイト研究会 (会員:10名 コアパーソン:真銅解子氏 毎月開催)  
原則として月一回の会合を開き、以下のような活動を行った。

- ① オープンソースによるデータベースの設計・作成の研究
- ② 各種 Web API 利用の研究
- ③ その他情報交換、問題解決等

(5) ターミノロジー部会 (部会員:9名 コアパーソン:太田泰弘氏 6回開催)

①設立の趣旨: 情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催し、2013年度は6回実施した。

2013年度の活動内容:

- 第55回(5月31日) 今年度の活動内容についての意見交換と主題の策定
- 第56回(7月12日) ターミノロジー用語リストについての意見交換および作業計画
- 第57回(10月4日) ターミノロジー用語リストについての意見交換および作業分担
- 第58回(12月6日) 専門用語管理支援システムの研究(講師:小山照夫)
- 第59回(1月31日) ターミノロジー用語リストの作成(講師:山本 昭)  
情報科学技術協会(INFOSTA)の標準化事業(講師:長田孝治)
- 第60回(3月20日) ターミノロジー用語リストの作成(講師:山本 昭)

10.3 3i研究会(会員:35名。8回開催)

研究会は、会員自身の調査・解析スキルの向上と情報の新しい活用方法の獲得を目指し、独立行政法人科学技術振興機構(JST)との共催により、2013年8月に活動を開始した。会員募集にあたっては協会の会員及び非会員を問わず募集し、企業、大学等から35名の参加があり、その内、非会員の参加が12名であり、参加費支払い(15,000円)が5名、個人会員入会が5名、維持会員入会1社(2名)であった。

研究活動の概要は以下の通り。

①研究会の開催期間と頻度

- ・2013年8月~2014年5月(月1回開催)

②研究体制と活動

・研究アドバイザー1名、4つのグループ(A~D)を構成し、各グループにリーダーを置き、それぞれ研究テーマに沿った活動を行っている。月1回の研究会では、グループリーダー会議、グループ討議、全体討議が行なわれ、参加メンバー間の情報交換およびグループ間の情報共有化を図っている。また、3月の研究会では、外部専門家にもご参加いただき、研究成果の中間報告会を行った。

【研究テーマ】

- Aグループ: 既存事業をベースとして新規事業への展開の検討
- Bグループ: 自社のコア技術の棚卸による新規事業の提案
- Cグループ: 連携すべき研究者を開拓・選定する方法の研究
- Dグループ: 企業における異分野融合の成功事例のプロセス解析とその応用

### ③調査・分析ツール

- ・特許、文献、ビジネス情報等のデータベース検索および分析ツールは、数社の提供会社の協力を得て利用可能となっている。

#### 1 1. 関連団体との交流

##### (1) 会員としての加入

- ・機械振興協会協賛会員（継続）
- ・科学技術振興機構賛助会員（継続）
- ・東京商工会議所賛助会員（継続）
- ・全国公益法人協会（継続）
- ・小石川法人会（継続）

##### (2) 他団体との共催

- ・情報プロフェッショナルシンポジウムを例年通り(独)科学技術振興機構との共催で開催した。

##### (3) 他団体から後援を受けたもの

- ・情報プロフェッショナルシンポジウムに対して専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会から後援を受けた。

##### (4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成25年度専門図書館協議会全国研究集会（専門図書館協議会）
- ・特許検索技術大会2013（(独)工業所有権情報・研修館）
- ・TP&Dフォーラム2013（TP&Dフォーラム実行委員会）